

# Distribution and conservation of temperate trees and shrubs in Hiyama Subprefecture, southwestern Hokkaido

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00055352">https://doi.org/10.24517/00055352</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 高橋英樹：北海道檜山支庁における温帯系木本植物の分布と保護

Hideki Takahashi: Distribution and conservation of temperate trees and shrubs in Hiyama Subprefecture, southwestern Hokkaido

北海道渡島半島の西南部に位置する檜山支庁の植物相調査を進める過程で、本州を主要な分布地とするいくつかの温帯系木本植物の北限や新産地と思われる地点を確認した。これらは北海道の絶滅危惧種として保護すべきと考えるので、以下に生育立地や現状を報告し、証拠標本を引用して北海道における分布図を提示する。

1) キブシ *Stachyurus praecox* Siebold et Zucc. (Fig. 1)

館脇 (1960) により黒松内低地帯より北に分布しない植物とされ、北海道における分布は渡辺・大木 (1960) や伊藤 (1981) により、渡島半島に局限されるブナ型分布に類型化されている。すでに日本全体の分布図は報告されており (倉田 1971; Horikawa 1972), 道内分布は渡島支庁, 檜山支庁とされる (伊藤他 1994)。北大標本庫 (SAP) には、渡島支庁では南茅部町, 榎法華村, 函館市, 上磯町, 木古内町, 知内町, 福島町, 松前町の標本があり, 特に上磯町のものが多い。これに較べると檜山支庁ではやや少なく, これまでの標本は厚沢部町, 江差町, 上ノ国町のみであり, 館脇 (1939) の報告や倉田 (1971) の分布図から判断すると, 本種の北限はこれまで厚沢部町蛾虫周辺 (土橋国有林) と考えられてきた。

今回の我々の檜山支庁調査で, 厚沢部町蛾虫の北方約 8 km にあたる, 乙部町内の山林にも点々と自生していることを確認したので, 新北限として報告しておく。場所は乙部町の南東部, 竹森の北東 1.5~2.5 km, 標高 80~140 m の林道に沿ってで, 少なくとも 22 株を確認した。現場周辺は複雑に林道が開かれている地域であり, 今後林道整備などで意識されずに伐採される可能性があるので注意を喚起したい。最近相次いで出された乙部町の植物リスト (キューブコーポレーション 1998; 鈴木他 2000) にも掲載されておらず, これまで見逃されていた。なお今回採用しなかった標本として, 1953 年歌才 (後志支庁黒松内町) の泥炭地採取とされる標本 (Matsukawa No.16178) が北大の菅原コレクション中にある。他の産地からは飛び離れており, 今後再調査が必要である。

本種は北海道レッドリスト (北海道 2000) 中では希少種にランクされている。渡島, 檜山支庁においては特に個体数が少ないわけではないが, 北海道全体として見ると渡島半島に分布が局限されていること, 開発されやすい低標高の林縁に多いことから注意が必要である。

## 分布資料標本 (北海道)

檜山支庁: 乙部町竹森東部, 北緯 41°58'53", 東経 140°12'04" (高橋 27022, 2000 年 5 月 16 日), 乙部町姫川第 2 ガロー林道 (笈田他 00-4421, 2000 年 5 月 10 日); 厚沢部町蛾虫 (菅原 16174, 1949 年 7 月 6 日; 館脇他 s.n., 1955 年 5 月 22 日), 厚沢部町厚沢部 (原 s.n., 1977 年 11 月 14 日, 1978 年 5 月 14 日, 1978 年 10 月 2 日), 厚沢部町厚沢部川の沢 (笈田他 98-1393, 1998 年 5 月 29 日), 厚沢部町土橋 (高橋・滝田 25403, 1998 年 7 月 30 日); 江差町笹山 (宮部・徳淵 s.n., 1890 年 8 月 4 日), 江差近く国有林 51 林班 (館脇 27077, 1937 年 5 月 19 日), 江差 (菅原 16173, 1949 年 6 月 1 日), 江差町市街東部 (高橋 24643, 1998 年 5 月 23 日), 江差町東山公園 (笈田他 99-2573, 1999 年 4 月 23 日; 99-3328, 3349, 1999 年 8 月 25 日), 江差町榎川林道 (笈田他 00-4238, 4241, 4257, 4261, 2000 年 4 月 25 日), 江差町榎川右岸林道 (笈田 00-4646, 2000 年 6 月 6 日); 上ノ国町湯ノ岱 (菅原 16172, 1948 年 7 月 2 日), 上ノ国町小安在川沿い (笈田他 99-4073, 1999 年 10 月 29 日)。

渡島支庁: 南茅部町川汲 (宮部 s.n., 1894 年 8 月 18 日); 榎法華村赤井川林地 (館脇 s.n., 1926 年 7 月 27 日); 函館市函館山 (山本 866, 1924 年 5 月 28 日); 函館市-南茅部町川汲峠 (徳淵 s.n., 年難読 8 月), 川汲山道 (宮部 s.n., 1894 年 7 月

Fig. 1. Distribution of *Stachyurus praecox* in Hokkaido.

18日)；上磯町茂辺地戸田御料地(二ノ上55,1906年5月17日)，上磯町上磯丘陵(Greatrex 439,1916年5月1日)，上磯町上磯(山本661,1924年10月4日)，上磯町当別丸山(山本1327,1925年10月4日)，上磯町上磯近く峯朗(館脇26040,1931年5月21日；30959,1940年6月15日)，上磯町水無沢標高100-200m(高橋6112,6119,1986年5月3日)，上磯町戸切地川釜の仙境(高橋他11327,1991年9月5日)；木古内町吉掘(原s.n.,1971年11月18日；1972年4月23日；1975年6月29日)，木古内町亀川(佐々木71,1989年5月18日)；知内町-福島町知内近く一ノ渡(宮部・徳淵s.n.,1890年7月16日)；福島町知内川上流標高200-250m(高橋2157,1982年5月4日)；松前町福山神明沢(川上H79,1892年8月18日)，松前町小島村(菅原16177,1952年7月23日)，松前町(原s.n.,1971年4月18日,1971年8月9日)。

## 2) マルバマンサク *Hamamelis japonica* Siebold et Zucc. var. *obtusata* Matsum. (Fig. 2)

マンサクは黒松内低地帯より北に分布しない温帯系の落葉低木で(館脇1960)，北海道における分布は渡辺・大木(1960)や伊藤(1981)によりブナ型分布に類型化されている。本州日本海側から北海道にかけて分布する個体は葉の先が円いとして変種マルバマンサクとする見解が普通なのでここでもそれに従っておくが，判断に迷う葉形もあり今後検討が必要である。北海道からは渡島支庁と桧山支庁(奥尻島)からの記録がある(伊藤他1994)。渡島支庁では最南部の南茅部町，木古内町などに稀にしか見られず，桧山支庁では奥尻島以外の北海道本島側からは報告がなく，我々の調査でも見つけられなかった。

奥尻島では赤石川から報告され(Tatewaki 1940)，最近，梅沢(1999)により奥尻島のマルバマンサクの写真が公表されている。我々の調査では赤石川河畔に少なくとも3株，烏頭川林道で20株程度を確認した。奥尻島ではこれまで島の中部東側の限られた数カ所の河畔沿いからしか知られていないようで，稀である。砂防ダムの改修や林道工事などで意識されずに伐採される可能性があり注意が必要である。

北海道レッドリスト(北海道2000)では希少種にランクされている。北海道においては渡島半島最南部と奥尻島に局限した分布をしており，個体数・産地ともキブシに較べてずっと少なく，絶滅が危惧される温帯系木本植物である。

### 分布証拠標本(北海道)

桧山支庁：奥尻町赤石川(富樫s.n.,1936年2月24日，3月1日；高橋26941,2000年4月27日)，奥尻町烏頭川林道(笈田他99-2859,2860,1999年5月12日；高橋26981,2000年4月28日；笈田他00-5078,5079,2000年7月20日)。

渡島支庁：南茅部町尾札部村沢(杉山s.n.,1889年9月)；知内山道(宮部・徳淵s.n.,1890年7月17日)；木古内町吉掘(原s.n.,1972年4月23日，1972年8月14日)，木古内(原s.n.,1980年4月27日)。



Fig. 2. Distribution of *Hamamelis japonica* var. *obtusata* in Hokkaido.

## 3) リョウブ *Clethra barbinervis* Siebold et Zucc. (Fig. 3)

北海道における分布は渡辺・大木(1960)，伊藤(1981)によりブナ型分布に類型化されており，館脇(1960)の分布図では渡島半島最南部にのみ分布点が打たれている。日本全体の分布図は倉田(1968)，Horikawa(1972)で示されている。伊藤・日野間(1987)によると，北海道の産地は渡島支庁と胆振支庁とされ，桧山支庁は挙げられていなかった。胆振支庁の分布は，おそらく岡本(1979)によるオロフレ山の記録に基づくと思われるが，胆振支庁の植物リストとして信頼のおける原(1979)の目録にはリョウブはなく，胆振支庁の存在には疑問が残る。それ故，これまでの確かな記録は渡島支庁からしかなかったと言える。

今回，桧山支庁の厚沢部町，上ノ国町でも確認した。これは桧山支庁からの初記録となる。立地は林道縁のやや湿気があるところを好むようだが，林道工事などで意識されずに伐採される可能性があり注意が必要である。

本種は北海道レッドリスト(北海道2000)には掲載されていないが，産地・個体数ともにキブシより少な

く、希少種としてランクすべき種である。

分布証拠標本（北海道）

桧山支庁： 厚沢部町大糠野林道などの沢（筧田他 99-4031, 1999年10月28日）；江差（菅原 17243, 1947年7月6日）；上ノ国町湯ノ岱（菅原 17242, 1949年7月22日），上ノ国町仙蔵の沢林道（筧田他 98-1875, 1998年7月10日），上ノ国町上の沢林道（筧田他 98-2448, 1998年11月11日），上ノ国町膳棚（筧田他 99-3577, 1999年8月27日）。

渡島支庁： 南茅部町古部（宮部 s.n., 1890年8月24日）；恵山町恵山（原 s.n., 1971年10月13日, 1973年1月1日, 1976年9月27日, 1977年5月8日, 1977年6月6日, 1977年8月8日）；戸井町（原 s.n., 1982年8月16日）；木古内町吉掘（原 s.n., 1972年4月23日, 1972年8月14日），木古内町亀川（高橋他 26147, 1999年7月5日）；知内町-福島町？, Ichinowatari sanchu（宮部・徳淵 s.n., 1890年7月17日）。



Fig. 3. Distribution of *Clethra barbinervis* in Hokkaido.

#### 4) ウラジロヨウラク *Menziesia multiflora* Maxim. (Fig. 4)

前3種と同様に、北海道での分布は渡島半島に局限されるブナ型分布を示している（館脇 1960；渡辺・大木 1960；伊藤 1981）。北海道における分布は高橋（1998）で整理し、桧山支庁の乙部町と厚沢部町の境界に位置する乙部岳を北限とした。今回、桧山支庁の厚沢部町、江差町、上ノ国町を新産地として追加したので、これらを含めて新しい分布図を示す。なお、ここでは Yamazaki（1993）に従って、変種 *Gakurajiroyoarak* var. *longicalyx* Kitam. を認めず広義のウラジロヨウラクとして扱った。道南の標本では、少なくとも1つのがく裂片は長く伸張する *Gakurajiroyoarak* の型が多かったが、乙部岳産の1標本（H. Takahashi 27764）ではがく裂片が短く安定していた。道南では自然度の高い山地から亜高山帯にかけて見られる。

北海道レッドリスト（北海道 2000）には掲載されていないが、北海道全体では分布が渡島半島に局限されており、希少種にランクされているキブシより産地はずっと少ない。また盗掘の心配もあるので（梅沢・伊藤 1993）、何らかのランクに位置付けるべきだろう。

分布証拠標本（北海道）

桧山支庁： 乙部町乙部岳尾根沿い標高 940-1,020 m（高橋他 22802, 1997年7月11日），乙部町乙部岳西斜面登山道（高橋他 27764, 27772, 2000年7月7日）；厚沢部町次郎沢林道（筧田他 00-4672, 2000年6月7日），厚沢部町大糠野林道などの沢支線（筧田他 00-4682, 2000年6月7日）；江差町笹山（菅原 17646, 1947年7月20日）；上ノ国町湯ノ岱佐田の沢林道（筧田他 00-4616, 2000年6月6日）。

渡島支庁： 上磯町茂辺地戸田御料地（二ノ上 53, 1906年6月6日），上磯町茂辺地西岐御料地（二ノ上 s.n., 1906年6月28日）；木古内町丸山標高 400 m（小泉 s.n., 1993年8月1日）；知内山道（宮部・徳淵 s.n., 1890年7月17日）；横津岳（Greatrex 539, 1916年7月12日）；福島町大千軒岳広河原～高山草原（高橋・櫛引 5552, 1985年7月3日）。



Fig. 4. Distribution of *Menziesia multiflora* in Hokkaido.

以上の標本は全て、北海道大学植物標本庫 (SAP) に保管されている。桧山支庁の植物相調査に協力頂き貴重な情報をもたらされた笈田一子、桂田泰恵、金上由紀、黒田シズ、高橋美智子、世那覇モト子の各氏に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- 原 松次. 1979. 北海道いぶり地方植物目録. 文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 (3): 1-56.
- 北海道 (編). 2000. 北海道レッドリスト (北海道の絶滅のおそれのある野生生物リスト). 25 pp. 北海道環境生活部, 札幌.
- Horikawa, Y. 1972. Atlas of the Japanese flora. 500 pp. Gakken, Tokyo.
- 伊藤浩司. 1981. 北海道の高山植物と山草. 230 pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 伊藤浩司・日野間彰. 1987. 北海道高等植物目録Ⅳ 合弁花植物. 244 pp. たくぎん総合研究所, 札幌.
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹. 1994. 北海道高等植物目録Ⅲ 離弁花植物. 480 pp. たくぎん総合研究所, 札幌.
- 倉田 悟. 1968. リョウブ. 日本林業技術協会 (編). 原色日本林業樹木図鑑 第2巻, p. 233. 地球出版, 東京.
- 倉田 悟. 1971. キブシ. 日本林業技術協会 (編). 原色日本林業樹木図鑑 第3巻, p. 217. 地球出版, 東京.
- キューブコーポレーション (編). 1998. おとべ植物ガイドブック—森からのおくりもの. 136 pp. 乙部町, 乙部.
- 岡本幹二. 1979. 室蘭地方植物誌. 318 pp. 自費出版, 室蘭.
- 鈴木聖一・斎藤友子・中田洋史・飯島由子・遠藤幸雄・佐藤利幸・高橋英樹・滝田謙讓・長谷 昭. 2000. 北海道南西部乙部町の被子植物相—生育環境による違いと開花・結実時期—. 生物教材 (35): 1-25.
- 高橋英樹. 1998. ウラジロヨウラクの北限について. 北方山草 (15): 41-42.
- 館脇 操. 1939. 桧山地方の植物 (土橋国有林と砂坂防風林). 北海道林業会報 37: 243-256.
- Tatewaki, M. 1940. List of plants of Island of Okushiri I. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16: 75-90.
- Tatewaki, M. 1940. List of plants of Island of Okushiri II. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16: 105-116.
- 館脇 操. 1960. 北海道植物の分布経路. 北陸の植物 8: 43-52.
- 梅沢 俊. 1999. 北の花つれづれに. 207 pp. 共同文化社, 札幌.
- 梅沢 俊・伊藤健次. 1993. 北海道百名山. 159 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 渡辺定元・大木正夫. 1960. 東北海道における温帯要素について. 北陸の植物 8: 97-101.
- Yamazaki, T. 1993. *Menziesia multiflora* Maxim. Iwatsuki, K., Yamazaki, T., Boufford, D. E. and Ohba, H. (eds.). Flora of Japan vol. III a, p.13. Kodansha, Tokyo.
- (〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学総合博物館 The Hokkaido University Museum, N-10 W-8, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan)